

第5回 福知山市行政改革推進委員会

日時：令和6年2月27日（火）

午後2時00分から

場所：市民交流プラザふくちやま3-2

■出席者

【委員（敬称略）】

深尾 昌峰、菊田 学美、井上 拓、浦尾 たか子、細見 祐介、村尾 慎哉

※ 深尾委員長、村尾委員はオンライン出席

【市】

市長公室長、財務部長、市長公室次長、経営戦略課長、事務局

■報告事項

（1）令和6年度福知山市予算案の概要について

≪【資料1】財政課より説明≫

委員

参考までに、ふるさと納税に関して、来年度予算を策定するにあたり今年度の予算の実績を参考にされたかと思うが、実際に今年度の見込みというところで、予算に対してどれくらいの実績をあげられたのか、この予算を編成するにあたり参考にした数値があれば教えていただきたい。

市

最新の数字は持ち合わせていないため大まかな数字になるが、今年度、3億9千万円ほどの予算だったが、少し厳しいというのが正直なところである。来年度に向け、担当課の方でもふるさと納税額を増やす取組は今年度から力を入れているところであるので、来年度は今年度を超える金額を目標に取り組んでいきたい。

委員

より高い目標を設定されたということで理解した。

委員

38ページ、「業務効率化の推進」についてであるが、時間的な削減というのは目標としていた時間なのか、もっとできるはずなのに、という時間なのか。ちょっと少ないのではという印象がある。

市

当初にどれだけの時間と目標を設定していたかはわからないが、実際は何でも一気に導入できるわけではなく、できる事務を探しながら少しずつ増やしているという段階であるかと思う。現在、この数字にはなっているが、他にも導入できるものなどを探しながら、超過勤務の削減をめざしたいと思う。AI-OCR、RPAだけでなく、他のアプリの導入など、庁内の職員により業務効率化の検討を含めて進めているところであり、今、時間はこのくらいになっている。

委員

市税の増加が1億円。これは所得が増えているという流れか。

市

個人市民税が増えているというのは給与所得が増えているということで差し支えない。

委員

数よりも個人個人の所得の水準が上がってきているのか。

市

そうである。

委員

39ページの基金残高だが、ここ3年間の棒グラフでは大きな割合で財政調整基金、地域振興基金が減少しているが、今後の見通しとしてはこの減少は継続されるのか、止まるのかを教えてください。

市

財政調整基金については、今年度は災害があったため大きな取り崩しを行っている。光熱費の高騰についても財政調整基金が出ており、このあたりは災害等がなければ取り崩しの額は減るかと思う。地域振興基金については、経常的な経費にも当たっているところがある。全体的なダウンサイジングを意識しながら取り崩しの額を一定抑えていかなければならないという認識でいる。それから、基金の残高については予算ベースでの差引をしているので、実際に決算となると執行額が落ちてきたり、黒字分の積み立てが出てきたりするので、右肩下がりのグラフは見た目よりもう少し緩やかになると見込んでいる。

委員

以前より行革委員会で経常収支比率を出していただいております、行革としてそれを意識していく必要があるならば今の数値を教えてください。

市

令和4年度決算での経常収支比率は92.8%となっている。以前は第6次行革で目標値としてあげており、そのあたりは行革委員会の方でも報告していたと思う。経常収支比率という比率の性格上、どうしても国の地方財政措置に数字が左右されるところも大きい。今現在、目標としては経常的経費の金額を意識して財政課としては予算体制を進めているところである。今の予算での経常収支比率というのは出せていない。

委員

国の影響を受けるということもあるが、一つの有効な数値として、参考として経年変化を見ていくことも重要かと思う。

(2) 令和5年度施策レビュー改善提案等に対する改善内容について

《【資料2、資料2-1～16】経営戦略課より説明》

委員

項目4を新たに改善内容で追加されたのはわかるが、項目3との関係はどうか。3に書かれていることも4に書かれているが、3の対応方針として打ち出したことを改善するのは4であると読んでいいのか、それとも3は大きな方針で4は具体と読んでいいのか。レベル感がバラバラという気がしている。我々はどのように読んだらよいのか。

市

後者である。3も取組として進めていくが、具体として今年度の予算等を踏まえて表しているのが4となっている。

委員

かなりの時間とコストをかけて施策レビューをやっているが、その最終的な事業の改善内容としてとりまとめていただいている。質疑応答あるか。

委員

今回、改善内容として実際の事業を落とし込んだ形で説明いただいたと認識している。今、委員長からの質問のとおり、おそらく事業に落ちきらない構想段階というか、大きな方針を考えるのは引き続き担当課の方でやるというような話だったと理解した。それも必要な事であるので進めていただきたい。質問として、各担当課の方で事業の見直しや予算の編成への取組を進めていただいていると思うが、実際に各担当課の施策レビューの結果としての受け止めや、予算編成の中でどれくらい重きをおいて考慮されていたか等、取組姿勢について、昨年と比較して今年の特徴や変化があれば教えていただきたい。各担当課で施策レビューの結果をどう捉えて予算編成や事業の見直しに繋がられていたか、気付き等があれば教えていただきたい。

市

顕著なところでいえば、人権の施策で、施策レビューを受けた結果、今まで座学等でやっていたところを、ご指摘を踏まえ、話し合いを通じて自ら行動を起こすようなことをしていかなければならないことに気付き、シフトしたということを聞いている。そういう点では、気付きを得て改善、予算に反映させてきたところもあるし、予算にまでは反映しきれなかったところも考えを活用している姿勢も見受けられるので、皆活用しているかと思っている。

委員

意地悪な質問になるが、あまり本腰を入れて活動を改善していない担当課も、経営戦略課から見て、あるのか。それとも全体的に改善の取組は浸透してきているのか。どういった評価か。

市

そういったところもあると見受けられる。今後も引き続き、改善に向けた取組を進めていきたいと思う。

■議事

(1) 施策推進の取組と施策レビューのあり方について

《【資料3、3-1】経営戦略課より説明》

委員

庁内の推進体制に関して、今年度の状況を説明していただきたい。6月に庁内推進会議というかたちでご説明いただいて、着実にかたちになり部会となって進んでいるもの、来年度から部会にするものなど、お聞きしたい。体制としては整って進めているものと説明いただいたと理解している。実際に今年度から、データ利活用・市民協働・施策改善の各部会において、実際に実績としてどういった会議（市民協働の取組、ワークショップ等）がどのような実施状況だったかを説明いただきたい。

市

資料3の3ページにおいて、それぞれの部会について説明させていただく。データ利活用部会に関しては、先ほどの資料3-1の事業の流れもあるが、今年度も5月に研修を実施した。その後は主にまちづくり構想の成果分析を行うことをメインに活動しており、成果の質問事項などの検討、事業の成果を図るにはどのような質問をしたらいいのかということデータを利活用部会では研究をした。また先月、総務省の研修で、エクセルでピボットテーブル等を使ったアンケートの分析方法を部会中心に学んだ。現在はアンケート調査の分析をもとに、施策の進捗具合を分析しているところである。市民協働部会に関しては、今年度から市民が行う21の提案の解決に向け、自治基本条例推進委員会に参画し、一緒に市民協働を具体化していくために取組を進めている。今年度の取組として、本来は施策全般において市民協働をいかに推進していくかということ部会に期待して

進めていく予定であったが、21の提案実現にむけた自治基本条例推進委員会の部会を中心に活動していたので、来年度はそのあたりを年度当初にすり合わせをして進めていきたいと思う。施策改善部会については、主に市長公室と財務部で財政予算への反映の確認などを各部局と行いながら、より改善が実行力あるものとするための取組を進めている。引き続き進めていきたい。

委員

追加で質問するが、データ利活用部会に関してかなり踏み込んだかたちで成果分析の取組を、本年度実施されたと理解した。来年度の施策レビュー、あるいは施策そのものの評価を、一旦まちづくり構想の成果指標で進捗を図ると定義されているものがあると思うが、そこから見直しを図る施策というものは出てきているのか。それとも引き続き評価しつつ、ブレイクダウンしたかたちでアンケートをとるなど、どのようなかたちで成果分析を行っているのか教えていただきたい。

市

まちづくり構想自体の成果の見直しにまで発展していないが、これはこれでまちづくり構想を策定した時のひとつの目標として把握している。今回のデータ分析で、これまでの施策レビューでもあったように、現状把握がうまくできていないところがあったので、そのあたりをまちづくり構想アンケートの中でも見えるように、どういった質問をすればそのあたりが分かるか、まちづくり構想は5年の計画であるが、もう少し近い未来を見たときにどういった質問が適切なのかを見ながら、データ利活用部会でちょうど今、分析しているところだが、それを含め、来年度は設問の段階からいろいろ考えてきたいと思う。

委員

施策レビューのなかで一次レビューがあり、全施策の一次レビューを受けた中でいくつかの施策を二次レビューにピックアップをし、さらにオータムレビュー・サマーレビューではどのような施策がピックアップされるのか。全体なのか。その視点やどういったことを行うのかは資料3-1に記してあったが、そのあたりのイメージがわかればうれしい。

市

施策レビューとサマーレビュー・オータムレビューの違いであるが、施策レビューは施策全体的内容・現状把握・課題設定・取組の方向性・構成する事業の成果という流れになっている。その中で取り組む方向性など課題設定に合っているかを確認しながら改善していく、見直しをしていくものである。一方で、サマーレビュー・オータムレビューはそれぞれ庁内で行っている。施策レビューを受け事業を見直していく事になるが、事業単体ではなく、どのように施策に繋がっているかを意識しながら、各レビューで事業自体の見直し、改善を確認する作業を行っていきたいと考えている。これまでも各レビューは予算要求につながる事前の協議であるので、そういった意味合いで考えている。

委員

資料3で、「施策レビュー」とたくさん出てくるが、一次、二次、サマー、オータムレビュー全てを含め、1年を通しての意味なのか。あるいは5ページの説明時に、右側の施策レビューのあり方の項目にある「施策レビュー」は一次レビューを指すということだったが、「施策レビュー」とは一次レビューを受けてのことなのか。わかりにくいので、そのあたりの加筆をお願いしたい。それぞれのレビューの位置づけを体系図としてざっくり書いていただけるとありがたい。

市

施策レビュー、一次、二次レビューとあるが、もう少し図式化してわかるように準備していきたいと思う。サマーレビュー・オータムレビューというのは、あくまでも推進の取組という位置づけとしており、施策レビューというのは一次、二次レビューの取組である。一次レビューは年度当初に取り組みしており、レビューシートを書くだけで終わるのではなく、書いたもの（施策レビュー）を常に意識して施策推進の取組、事業改善につなげていくという流れを資料3-1で示している。それぞれのレビューの位置づけが分かりにくいので、体系図を整理し、次回示せるようにしたい。

委員

施策レビューというのは、この列のことをいうのでよいか。（資料を示しながら）

市

そうである。

委員

資料3-1の年間スケジュールは令和6年度のものだと思うが、令和5年度との大きな違いはあるか。

市

資料3-1の年間スケジュールだが、令和6年度から新たに取り組むというものはない。令和5年度は、それぞれ相関関係を持たずに点で行っていたところがあり、後にレビューの意見等を反映すべきだという反省点があり後戻りしたため、経営会議と自治基本条例推進委員会との流れなどを整理し、年間を意識して、後戻りすることなく進めていきたいと考える。令和5年度も同じように、こういった取組を実施してきた。

委員

一次レビューで出てきた評価を振り返って見たとき、職員研修・データ研修等をやったわりには内容が薄いように感じる。それを推進して進化していくという位置づけでお願いしたいと思う。今後も資料3の10ページで、議論の振り返りのイメージ（案）を掲げるのは良いアイデアだと思うが、むしろ当日までに担当部署の方がシンプルに自分たちの考えていることを伝え、こういう議論でお願いしたいというぐらいの姿勢で、周囲の方にも意見を聞く場にしていくべきではと思う。難しいとは思いますがそれぐらいの意気込みで進めていただきたいと思います。

市

言われた通り、資料については2ページに示しているように、流れが主観的にわかるような資料として議論に臨めるよう進めていきたいと思う。

委員

8ページの二次レビューの実施(案)の円の図で、当日参加者という円は昨年5月に会場でやった二次レビューで、それ以外に3つ案を出していただいているが、それぞれのレベル感というのは、メインは当日参加者が中心になるということではどうか。どのようにやっていくかはこれから具体化されるのだろうが、何か案があったらお聞きしたい。メインは当日参加者で、もっと広く情報を得るために、出張やコミュニケーションツールを新たな方向でやるということの提示といったイメージでどうか。

市

メインは当日の参加者、二次レビューをメインにしたいと思っている。そこでの説明がわかりにくい、施策の推進の確認などが不十分と意見をいただくことがある。そういった点を改善し、出張やウェブ上での発信につなげ、改善の意見提案をより出しやすいかたちで発信したいと思っている。

委員

当日参加者の方と出張やコミュニケーションツールの参加者とでは情報の差が出るので、その互換が難しいと思っている。これをどのようにまとめて公開されるのかを期待し、楽しみにしている。

委員

今の意見はものすごく大事なポイントだと思う。例えば、これを資料3-1の年間スケジュールに落として出張施策レビューを二次レビューとしてやるとすると、どういうタイミングでやれるのか。時間的な幅も短いと思う。やるのが目的ではなく、そこで出た意見を改善につなげていくことが目的だとすると、出張等へ広げていくことは大賛成だが、生かし方やそこで出た意見をどのようにこのスキームの中に入れ込んでいくのかなど、イメージはあったりするのか。

市

例年、二次レビューは7月に実施しており、そのあとから8月にかけて出張等の取組を行い、意見をいただく場にしたいと思っている。そのあと対応方針の検討もあり、予算要求に繋げようと思うと、8、9月に実施するのがよいと考える。

委員

学校等と書かれている文脈からすると夏休みが最適だったりする。逆に夏休みだからやりやすいといったやり方のほうが考えられるといいと思う。出張というものが生きるかたちで考えていただ

ければと思う。改善に生かせなければ意味がないし、やることが目的になるのは少し違うと思う。スケジュール的なところにおいて、当日参加と出張を踏まえて良い議論ができ、かつ言われたように出張の難しさもあるかと思うので、より工夫が必要になると思うが、そのあたりも検討いただきたい。

委員

4 ページの施策の推進体制について。3つの視点を持ったチームを有機的に機能して推進を図り、経営会議で統括するイメージなのかと思う。ただ、4 ページの意味がつかめない。それぞれの部会 は関係課の方が集まって組織されると思う。おそらく経営会議で取りまとめ、そこが自治基本条例 推進委員会に連動し、最終的に推進を図るだろうから経営会議が重要な組織として機能するのだらう。市としては、こうやるというイメージを書かれているのか。この部会と施策レビューとの関係 がわかりにくいので説明願いたい。

あと、それぞれの部会には責任者が決まっている組織なのか。これから作る組織なのか、既にある組織なのかどうかも教えてほしい。

市

こちらの部会は、経営会議のもとにある市役所内部の組織である。施策レビューの場に直接関係 してくるものではない。例えば、データの利活用、市民協働の視点を持ちながら庁内での推進体制 につなげていくといった部会である。部会という名だが、部会長がいるわけではない。経営戦略課 が主に事務局として組織を動かしている。毎回会議を行うというよりも、データのやりとりを行な ったり、ネットワーク上でやることを決めたり等、それぞれ各施策の担当部署の職員の中に選ばれ ている部会員がいるので、施策の推進をする上で動くかたちをとっている。すでに今年度も動きな がら全てを行ったところである

委員

これはそれぞれのデータ利活用や市民協働等のレベル感を関係課ごとで合わせる会議だと理解 したらよいか。

市

その通りである。各施策のそれぞれのレベル感をこれによりあげていくことを行っている。

委員

その上に経営会議があるが、これはどのようにコントロールしているのか。

市

それぞれの部会が研究や活動した内容を施策の推進の取組に反映している。それを取りまとめて 経営会議で最終的に合意形成や協議を行っている。例えば、二次レビューを踏まえた対応方針も施 策改善部会で事前に内容の精査を行い、それを各部長が出席する経営会議で協議・検討を行い進め

ているところである。

委員

二次レビューの議論イメージについて、施策の説明は非常に重要だと思う。議論の目線合わせ、参加される市民の方が理解するために現状把握、課題設定、資料の左部分は非常に重要だと理解している。その上で去年の施策レビューを振り返った時にもう一点重要なポイントがあると思う。10ページのイメージで行くと表題の部分である。「多文化社会をみんなで実現しよう」とタイトルがつき、施策の名前としてついている。そして目標値や施策の成果指標は、「国際交流ボランティアの活動件数」で10件をめざす施策としていると思う。市が思い描く多文化社会の実現とは具体的にどういうイメージを指すのか。めざす姿を最初に目線を合わせられると、現状と比較したときにその差が課題として表れるので、非常に議論の構成としてはわかりやすくなる。去年の議論の中でも、市がどういうところをめざそうとしているのかがわかりづらいので補足説明してほしいという議論があったかと思う。市が思い描くビジョン、この施策の中でより具体的に実現するイメージとしてはこういうものという担当課の思いが、この最初の施策説明の中に表れるとより良くなるのではと思う。時間でいくと現状把握の所は枠をあわせて説明することになるかと思うが、まちづくり構想の施策で定義されているところをより具体的なイメージとして、担当課の思い描いているのはこういう姿だ、ということ議論の冒頭で説明いただき、イメージを図表やイラスト等を用いて定義していただけるとよいかと思う。作り方、説明の場の作り方等、検討いただきたい。

市

委員の先生方にお詫び、補足をさせていただく。思い、考えはそれなりに感じていただいているかと思いつつ、スケジュールや具体的な手段となるとうまく繋がっているように感じられない部分が多くあるように思う。昨年度、今年度と施策レビュー・二次レビューをやり、本番でも行革委員会でも施策推進の中で問題があるのではというご指摘があったにも関わらず、「来年度のスケジュールの中で新しいことはなく、つながりを考えただけ」という答え方も、指摘されたことをどれだけ踏まえたかというところに委員の皆様は疑問を持たれると思う。こうした方がいい、スケジュールに組み込んだ方がいい等の提案を踏まえて「来年度はこうします」と言えないところが問題だと思う。私の思いで言うと、二次レビューのためにわかりやすい資料を用意するのではなく、二次レビューを受けてない担当部署もそれぞれの施策について市民の方に理解し、一緒に取り組んでいただける資料や説明がいつでもなされる状況をつくることこそが大事であるのに、いつまでたっても二次レビューの準備のための議論をされていることが寂しく思える。本日オンラインで委員会に参加してやり取りを聞いていると、そう強く思った次第である。第三者的に聞いていると、若干そのあたりが中身として寂しいと思えた。今日のこの場でも厳しいご指摘をいただいたと思うが、引き続き委員の皆様から厳しくご指摘・ご指導いただけたらと思うし、事務局・庁内全体を含めて、そのあたりをしっかりと受け止め、どのように変え、どういうところを工夫し、来年度はどこに力点を置くのかをもっと明確に示せるよう、さらに努力してほしいと思う。本来、私がやるべきであるが行き届いておらず、改めてお詫び申し上げつつ、一生懸命頑張っていきたいので引き続きよろしくお願ひしたい。後の資料で説明する内容も含め一緒に考えていただくと、新しくなるところをご

理解いただけると思うので説明をお願いしたい。

委員

では、議事の（２）その他にて、事務事業評価シートのお話をさせていただく。

（２）その他

《【資料４、５】経営戦略課より説明》

委員

事業目的がより分解され、項目として分けて伝えるという点は書く側もわかりやすく、読む側もわかりやすくなっていいと思う。一つ前の議題でコメントした「めざす姿」をこの事業の単位でいくと、事業目的のところにまちづくり構想の施策を踏まえて書かせるということは、担当課からしても書くところが明確になり、現状と突き合わせて課題を書くという点は、こちらとしては先ほどのコメントともつながり、ありがたいと感じた。是非、担当課の方には中身にこだわって、事業の目的・現状・課題をデータ分析部会との取組と繋げながら、成果の分析結果を踏まえてこちらに書いていただきたいと感じた。

次ページに関しても、中・長期のアウトカム、短期のアウトカムが明確に意識され、担当課の方が引き続き書いてもらおうということが重要であると感じた。一方で、すごく悩む担当課も出てくると感じている。昔の事務事業評価シートにおいても経常的に行う事業で、繋がりどうこうでなく、担当課からすると思考が硬直しているようなものも、改めて考えるきっかけになるというところを狙いとしてやっていただきたい。全員が同じところで悩むよりは、施策担当部課の中での大きな方針・戦略を柱として、それに沿った上でこのシートを書けばよいといった取組に、非効率にならないよう論理立てて、この部は書けているが、この部は書くメンバーが一人ひとり悩んでいるというようなことにならないよう、経営戦略課が道標を取っていただければと思う。民間企業でもやるときは、こういったものはトップの戦略があり、組織としての戦略があり、担当者単位の戦略があるものだと思うので、各担当部課の施策としての戦略としてはこういうものがあり、施策の成果指標には分解するところこういうものがある、だから事業としてはどこかに当てはまるといった全体像を、組織として意識をしながら、担当者も作業をしていただくような進め方をアドバイスして頂けたらと思う。

委員

さきほどの意見に重複するが、このシートは非常によく考えて作られたと思う。

Ⅳの業績で、中・長期、短期の動きを連動させるのは非常に重要だが、中・長期の成果指標と必ずしも連動しない事業は結構あるのではと思う。そうした時に、この表を作ることが非常に困難な事業はどのくらいあるのか。意外と多くあるのではと思う。多くある場合、そういった事業の取り扱いについて事前に検討しておかないとシートとして機能しなくなる可能性があると思う。現状、検討されていると思うが、継続的にどうしてもやらないといけない事業は意外と多くあると思うので、数値目標等を書こうと思うと書けない事業が出てくる。そのあたりどう考えているのか教えて

いただきたい。

市

ご指摘いただいた通り、このシートのたたき台を作成する上で、担当課に実際に記載いただきながら意見を聞く中では、数値目標として書きにくい事業があるという意見は複数受けている。書きにくさというのも、国の法令に基づいて粛々とやるような事業や一般管理事業的なものとなると、各施策に書かれている数値指標と直結したものとしては書き辛いものがある。そうなるこの枠を設けたことで、全事業において同じ項目で書くことが目的化してしまうと、本来時間を割くべきところに割けないという課題も出てくると思うので、繋がりやすい、あるいはパターン的に施策目標の指標につながる場所は、ある程度定性的な評価として別の項目で表現できるようにメリハリをつけることは必要かと思っている。もう一点、指標が繋がらない中で、これまでの延長線上で立てていた事業のアウトプット・アウトカムが、そもそも事業ありきの視点に基づいて立てたような指標を無理やり上位の施策と紐づけようとして苦しさを感じるものも出てくるのではないかと思う。そういったところでは、事業のアウトカムの指標というのが、本来施策に貢献するものかということも、もう一度上位の指標を上からおろしてくる観点で、より適切な指標があるのではないかという考え直しも必要かと思っている。そういった考えの上で、なお掲げている施策や施策の成果指標と直結しない、あるいは繋がらないものについては、まちづくり構想で掲げている指標以外にも、その施策自体の課題・取組・方向性といったものも複数表現しているのだから、その事業ではどれにつながるものなのか、成果指標の欄で表現していく事もできるのではと考えている。

委員

すごく大事なことだと思う。担当者の方にわかるように説明する役割を担っていただきたい。我々も第三者として見るときに、表でいうと事業区分と実施方法のマトリクスで、どこに位置づいているものなのかを表を見ながら頭で組み立てて読み取っているわけである。例えば補助金の交付というのはすごく温度差が出てくる内容である。資料を見たりして後追いで全体のストーリーを読んでいくのだが、最初に事業の属性のところに関連してわかるような位置づけというものを置いていただき、そのなかで先ほど説明のあった成果指標も含め、繋がって事業全体が見えるように工夫していただけるとより理解が進みやすいのではと思う。

市

今、ご指摘いただいた事業区分・実施方法のところ。今回はこの項目は変更を加えていないところであるが、書き方の区分は事業によって複数にまたがるものもあれば単体のものもある。感覚的なところでいうと、区分を厳密に都度考えて内容が見直されているかということ、継続している事業についてはよほど大きな変更がなければ特に見直しされることはないかと感じている。一方で、改めて事業の背景・課題・事業目的についてシートを基に振り返る中で、事業区分・実施方法が正しく表現されているのかということもあるが、そのかたちが最も効率的・効果的なものになっているのかについては、新しい項目だけでなく、関連するような属性についてもセットで改めて見直していただくように、そういったところはシートを埋めることが目的化しないようチェックする側も記載

する側も原点に立ち返るように、丁寧に説明会でも進めていきたいと考えている。

委員

本当に実施方法がそれでいいのかという問題点は意味があると思うので、ぜひお願いしたい。

委員

施策レビューの3つの視点でデータ利活用・市民協働・施策改善というポイントがあったが、施策レビューの中で市民協働の視点や施策改善の方向性等が出てきて、それを受けた上で事業をどうしていくのかを考えなくてはならないものが出てくると思う。評価シート2ページのIV業績指標の中・長期アウトカムの「関連する計画で定める目標」のところにも、施策レビューを受けた方向性を盛り込めるようにしておけば、それを踏まえたレビューになっていくのではと思った。

市

シートの作成については、各担当課でこのシートに基づいて作成を進めていこうと思っているが、この作業自体が単体・独立したものになってしまわないようにしたい。例えばデータ利活用部会・施策レビューの一年の取組を通じて、情報を個別で持つのではなくお互い連携しながら各部会の取組も施策レビューの取組も事務事業評価シートへの落とし込みも、常につながるように工夫をする意識を持ちながら、一年を通して繋がるよう努力していきたいと思う。

委員

そのほかに意見はないか。（→なし）

本日の委員会については以上で終了とする。

以上

※公表時には〇〇委員（長）は、委員と、市の関係者は、市と表記します。